横浜市長選結果

伊藤ひろたか25万7665（22.8%）
林　文子　59万8115（53･1%）
長島　一由　26万9897（23･9%）

岡田尚「新市長とワクワクする横浜をつくる会」代表

経過は、市民レベルで共同すすめ、各野党に要請した。

各市民・政党の政策・思い・やり方の違いが当然ある中、リスペクトを重視した。横浜で初めての共闘、新しい政治改革の一歩になった。

２０時０５分「当確」ニュース直後の**記者会見**

伊藤ひろたか「６月中旬、出馬の遅れ」「選挙の大きさ、民意をつかむ難しさ」と語る。**真山勇一本部長**は「伊藤君の決断に感謝」「“カジノでなく中学校給食を”は、市民に伝わった」「多くの市民と野党の協力を無駄にしない」「悔いのない闘いだった」と語り、記者団の質問に答えた。

安倍政治ＮＯ！・「野党は共闘」の教訓を更に発展させ

総選挙勝利へ！

横浜市長選の結果について（談話の要旨）

２０１７年７月３１日　　神奈川革新懇事務局長　斉田道夫

1、選挙結果について

伊藤ひろたか市長候補の出馬声明は６月２０日、「市民の市長をつくる会」は７月１３日の総決起集会からなど、短期間の運動で２２％の得票は、大変残念な結果ですが善戦健闘と評価する。

投票率３７・２１％は、前回比８．１６イント増で、その前進に貢献できた。

2、運動の評価

（１）政策と争点、対決構図について

○　６月２７日の政策合意は、４月５日立憲４野党と市民連合との合意を前提に、「３つの緊急課題」（カジノ反対、中学校給食実現、待機児童解消）、「５つの目標」を具体化した。林陣営は、カジノ問題の争点化を避け「白紙」の立場で黙殺し、中学校給食実現は「ハマ弁給食」を主張した。反カジノを訴えた２人の得票が４７％であり、市民の明白な審判が示された。

○　都議選と仙台市長選の流れを受けた「アベ政治ＮＯ！」は、民進党の自主投票、連合の林支持などで、市民に与党対野党の対決構図が鮮明に浸透できなかった。

（２）「市民と野党の共闘」について

経過は市民団体が共同して、政党に働きかけを行った。その結果、民進党の一部、日本共産党、自由党、緑の党が賛同して、「市民と野党の共闘」が横浜で初めて実現した。

横浜の各革新懇は、どこでも「区民の会」の中で中心的な役割を果たして奮闘した。神奈川革新懇は、連日の「推進ニュース」で全県・全国へ情報発信に努力した。

（３）神奈川革新懇は、横浜で初めての歴史的経験を深め、来るべき総選挙勝利に生かす決意